

[GT500] #38「KeePer CERUMO GR Supra」

序盤で一気にポジションを落とし、追いつけならず11位でフィニッシュ。

予選では7番手。スタートドライバーは石浦宏明選手。決勝前のウォームアップ走行でタイヤにグレーニング(ささくれ)が出ており、明らかにペースが鈍ることが予想されていた。案の定、一気にポジションを落とし12番手となってしまった。そこでチームは、石浦選手がなるべく長く走り、ミニマムで入ったライバルたちのタイヤが苦しくなったところで、大湯都史樹選手に追いつけてもらう作戦を組んだ。GT300クラスのアクシデントで序盤からフルコースイエロー(FCY)が発生する展開となっていたが、44周目、ピットロード出口でGT300車両がストップ。これを見たチームはFCY導入を察知し、石浦選手を呼び戻した。GT500クラスの中でも最後のピットインとなり、タイヤはフレッシュ。さらに追いつけたが、GT500クラスの#64 CIVIC TYPE-R GTとGT300車両2台が絡むアクシデントがストレートで発生。レースは赤旗中断となってしまった。レースは中断を要することになったが、その間に陽は傾き、路面温度も下がっていった。このことがライバルたちのタイヤに味方したか、セーフティカーランでの再開後、大湯選手は果敢に攻めたものの、ライバルたちのペースダウンは少なく、ポジションアップはならなかった。



[GT300] #61「SUBARU BRZ R&D SPORT」

23位から1位に浮上するが、タイヤ不調で22位に。



予選ではQ1敗退。予選23位という後方からスタートする決勝レースでドライバーの山内英輝選手はこの状況を打開すべくグリッド後方からの追いつきに意欲を見せた。それが功を奏し、順位は上位へ駆け上がり、42周目にはついに1位に立つ。仕上げに井口卓人選手がコクピットに収まる。タイヤは無交換とし給油のみでピットアウト。すぐに井口選手から「右のリヤタイヤがおかしい」と無線が入り、直後にタイヤが外れかかっている映像が流れた。再びピットに戻り修復をし、残り3分となった時点でレースに戻ってチェッカーを受けた。

[GT500] #100「STANLEY CIVIC TYPE R-GT」

激しい戦いを走り抜き、8番手から6位へポジションアップ。



予選15番手でスタートドライバーは山本尚貴選手。レース折り返しを前に計12台がピットイン作業を終える。逆に後方から周回を続ける山本選手は、他車がピットに戻ってクリアになったコースを力走。ピットイン直後に2回目のFCYが導入、マルチクラッシュが発生。SC先導のもと、8番手からリスタートを切るが後退。これを受け、牧野任祐選手は6位へとポジションを上げて激しい戦いを終えることになった。

【第5戦時点でのランキング】	ドライバー ランキング	チーム ランキング
[GT500] #38「KeePer CERUMO GR Supra」	5位	5位
[GT500] #100「STANLEY CIVIC TYPE R-GT」	6位	6位
[GT300] #61「SUBARU BRZ R&D SPORT」	10位	9位

残すは2戦！
応援のほど
よろしくお願いします！！



五味やすたかさんお気に入り。
新型フォレスターにまずはEXプレミアム！

人気モータージャーナリスト五味やすたかさんが、東京スバル恵比寿店で新型フォレスター納車直後、その足でEXプレミアムを施工しにきてくれました。

自らTREXキーパーやフレッシュキーパーなど、様々なKeePer体験をされてきた中で「EXは最強コスパ!」と絶賛いただき、ここからこだわりの慣らし運転へと出発していかれました。

待ち時間にお楽しみいただいたレーシングシミュレーター「DRiVE-X」体験もレポート。その腕前とタイムは本編後のおまけ動画でお楽しみください。



E-CarLife with 五味やすたか にて配信中!



脱フッ素

LONG LIFE

silicon

Glass

高耐久 シリコン ガラスコーティング 完成

環境問題に真摯に取り組む意味で、KeePerは全製品、全サービスからフッ素をなくす努力を重ねてきました。

最後のフッ素含有製品「フッ素ガラスコーティング」からも(※フッ素は、ガラスと結合力が特に強く、耐久力を増す有用な手段でした)、フッ素をなくし、全てシリコン成分でのガラスコーティングを完成しました。

LLSiGの長所

純シリコンで透明度も高く、
ほぼビビリが無いタイプです。

LLSiGの短所

硬度アップの為「硬化剤」を
使用直前に混ぜるタイプですが、
フッ素タイプに比べると、
やはり耐久期間は少し短めになります。



作業時間：20分～

耐久期間：3～5ヶ月

※効果・持続期間は目安です。
あらゆる実車状態・使用状況での
効果・持続期間の確認はしていません。

	フロント	全面
SS～M	3,720	SS～M 8,270
L・LL	3,960	L・LL 9,060
XL	3,960	XL 9,860

(単位は円、税込)

作業マニュアルは
こちらからご覧ください。



キーパーコーティングがメルセデス・ベンツ日本合同会社に採用されました

2025年8月1日より、メルセデス・ベンツ日本合同会社(本社：千葉県千葉市美浜区)において、キーパーコーティングが純正品として取扱い開始されました。

これに伴い、全国のメルセデス・ベンツ正規販売店において、メルセデス・ベンツ純正ボディコーティングとして、オリジナル名称「Premium EX」および「Premium EX for Matte Paint」のほか、ボディ以外のパーツを対象としたパーツコーティングが順次発売される予定です。

Mercedes-Benz Genuine Bodycoating

Premium EX

Premium EX for Matte Paint

KeePer の
オウンドメディア
「KeePer Giken」
チャンネル



チャンネル登録
お願いします!